



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 安楽亭

コード番号 7562 URL <http://www.anrakutei.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柳 時機

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務人事部長 (氏名) 本多 英明

TEL 048-859-0555

四半期報告書提出予定日 平成24年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	8,089	10.0	46	—	11	—	△72	—
24年3月期第2四半期	7,354	△16.2	△168	—	△223	—	△292	—

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 △82百万円 (—%) 24年3月期第2四半期 △290百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	△3.40	—
24年3月期第2四半期	△13.65	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	13,553	4,644	34.2
24年3月期	14,132	4,726	33.4

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 4,636百万円 24年3月期 4,719百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,030	7.3	60	—	120	—	120	—	5.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) 株式会社相澤 、 除外 1社 (社名) 株式会社二十一屋
(注) 詳細は、添付書類5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 有
④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より、減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期2Q	21,504,347 株	24年3月期	21,504,347 株
② 期末自己株式数	25年3月期2Q	109,822 株	24年3月期	108,500 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期2Q	21,395,078 株	24年3月期2Q	21,395,593 株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
当社は、平成24年11月19日(月)に証券アナリスト・機関投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明会資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) セグメント情報等	12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、東日本大震災からの復興需要等を背景に緩やかに回復傾向にあるものの、長期化する円高、デフレ等の影響から依然として先行き不透明な状況が続きました。

外食業界におきましては、食中毒事件や放射性セシウム汚染牛肉等の風評被害に苦戦した昨年に比べると客数は大きく回復しているものの、原材料価格や電気・ガス等のエネルギーコストの上昇等、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の下、当社グループは提供する商品の「安全・安心」に加えて、安楽亭の楽しさを伝える様々なフェアを行ってまいりました。また、低カロリーで柔らかい赤身肉のメニュー等を開発することで、新たな顧客層の開拓にも取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高80億89百万円（前年同四半期比10.0%増）、営業利益46百万円（前年同四半期は営業損失1億68百万円）、経常利益11百万円（前年同四半期は経常損失2億23百万円）、四半期純損失72百万円（前年同四半期は四半期純損失2億92百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 安楽亭業態

当第2四半期連結累計期間に4店舗を閉鎖した結果、安楽亭業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は200店舗であります。内訳は直営161店舗、暖簾5店舗、F C 34店舗であります。

販売促進につきましては、「生ビール&焼肉フェア」といった安楽亭の楽しさを伝えるフェアを開催してまいりました。また、キャンペーンを月例の定例タイミングのみならず〔一週間限定〕や〔店舗・地域限定〕の特別企画など、趣向を凝らした新たな取組にも着手しております。また、メールマガジンの配信では、新規登録時特典の開始につれ累計会員数が大幅に増加しております。

商品開発におきましては、近年利用の増加が顕著なシニア層ないし女性層に訴求する新商品としてヘルシーな赤身肉の焼肉商品や、お一人様向けの定食商品のご提案を続けております。また、仕入/製造/物流/販売を一貫する当社サプライチェーンを基盤とした衛生管理マネジメントを活用し、厚生労働省が定めた「生食用食肉の規格基準」を充足する牛ユッケの販売を再開しております。

以上の結果、安楽亭業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は68億67百万円（前年同四半期比10.0%増）となり、セグメント利益は2億59百万円（前年同四半期比358.7%増）となりました。

② 七輪房業態

七輪房業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は23店舗であります。内訳は直営21店舗、F C 2店舗であります。

販売促進並びに商品開発につきましては、「生ビールスクラッチフェア」、「ホルモン食べつくし祭り」等、七輪房の楽しさを伝えるフェアを開催してまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は9億22百万円（前年同四半期比14.2%増）となり、セグメント利益は61百万円（前年同四半期比584.8%増）となりました。

③ その他業態

当第2四半期連結累計期間に1店舗を出店した結果、その他業態の当第2四半期連結会計期末の店舗数は17店舗であります。内訳は直営9店舗、暖簾2店舗、F C 6店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋（焼肉）」、「楽コンセプト（焼肉）」、「まんぼく（焼

肉)」、「国産牛カルビ本舗安楽亭(焼肉)」、「和牛カルビ屋(焼肉)」、「春秋亭(和食)」、「上海菜館(中華)」、「龍饗(中華)」、「カフェビーンズ(喫茶)」、「AGRICOCO(イタリアンカフェ)」、「KARIN(スンドゥブカフェ)」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は2億99百万円(前年同四半期比1.9%減)となり、セグメント損失は27百万円(前年同四半期はセグメント損失28百万円)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 連結財政状態の変動状況

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ5億79百万円減少し、135億53百万円となりました。これは主に、現金及び預金が減少したこと、有形固定資産の売却及び減価償却等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ4億96百万円減少し、89億9百万円となりました。これは主に、借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ82百万円減少し、46億44百万円となりました。これは主に、四半期純損失の計上によるものです。

② キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度と比べ1億54百万円減少し、8億42百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失の計上36百万円がありましたが、減価償却費の計上1億76百万円、減損損失の計上42百万円等により、1億20百万円の収入となりました。前年同四半期は1億59百万円の支出でありました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が80百万円ありましたが、有形固定資産の売却による収入1億54百万円、敷金及び保証金の回収による収入1億30百万円等により、1億93百万円の収入となり、前年同四半期と比べ1億81百万円の収入の増加となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出4億2百万円、割賦債務の返済による支出41百万円等により、4億69百万円の支出となり、前年同四半期と比べ1億33百万円(前年同四半期比39.7%)の支出の増加となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年5月11日の平成24年3月期決算発表時に公表しました、平成25年3月期通期連結業績予想について下記のとおり修正します。

① 平成25年3月期通期連結業績予想数値の修正
(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表数値(A) (平成24年5月11日発表)	16,070	330	210	95	4円44銭
今回修正予想(B)	16,030	60	120	120	5円61銭
増減額(B)－(A)	△40	△270	△90	25	—
増減率(%)	△0.2	△81.8	△42.9	26.3	—
前期(平成24年3月期)実績	14,941	△157	△251	△474	△22円18銭

② 修正の理由

当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、想定の早期の完全回復とはならず、前回発表予想を下回る結果となりました。

利益面では、上記売上高の減少に伴い、営業利益、経常利益及び四半期純利益はそれぞれ前回発表予想を下回る結果であります。

第2四半期連結業績予想の修正につきましては、個別業績予想の修正及び米国産牛肉の輸入規制緩和をにらんだ米国での生産減産や飼料であるトウモロコシの価格が干ばつによって高騰していることから仕入価格が上昇したため、前回発表予想を下回る結果となりました。

通期の業績につきましては、今後、米国産牛肉の輸入規制緩和見通しにより、異常な価格高騰を示した米国産牛肉の相場は峠を越えており、また、ほぼ10年ぶりに30ヶ月牛の輸入が可能になると、仕入コストの低下、多彩な営業施策展開の可能性が広がる等、多点にわたる改善が見込めます。

なお、平成25年3月期の通期業績予想に関する事項については、平成24年11月9日公表の「業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」を参照してください。

(注意事項)

本資料における業績予想や将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき合理的と判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されております。従いまして、実際の業績は、見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

連結子会社のうち、㈱サリックスマーチャンダイズシステムズ(存続会社)と㈱デイリーエクスプレス(消滅会社)及び㈱相澤(存続会社)と㈱二十一屋(消滅会社)は、平成24年4月1日付で合併しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益は1,047千円増加し、税金等調整前四半期純損失は1,047千円減少しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	999,864	845,246
受取手形及び売掛金	288,272	260,037
商品及び製品	89,159	122,446
仕掛品	326	202
原材料及び貯蔵品	230,144	259,610
前払費用	216,623	213,137
繰延税金資産	2,733	1,103
その他	129,359	126,451
流動資産合計	1,956,482	1,828,235
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,697,949	2,559,808
機械装置及び運搬具(純額)	19,958	19,552
工具、器具及び備品(純額)	75,069	75,810
土地	5,991,424	5,814,908
リース資産(純額)	20,304	23,582
建設仮勘定	183	—
有形固定資産合計	8,804,890	8,493,663
無形固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	63,830	54,448
長期貸付金	911,971	887,558
長期前払費用	29,822	28,310
繰延税金資産	10,348	9,881
敷金及び保証金	2,931,177	2,817,438
その他	58,381	56,696
貸倒引当金	△737,530	△737,157
投資その他の資産合計	3,268,001	3,117,176
固定資産合計	12,176,113	11,725,166
資産合計	14,132,596	13,553,402

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	498,372	486,882
短期借入金	6,843,494	6,431,280
リース債務	5,443	8,875
割賦未払金	60,828	24,838
未払金	214,915	254,654
設備関係未払金	61,985	22,867
未払費用	451,194	446,782
未払法人税等	90,181	56,571
未払消費税等	45,665	80,615
賞与引当金	61,400	66,910
転貸損失引当金	2,680	2,680
その他	447,296	392,253
流動負債合計	8,783,458	8,275,213
固定負債		
長期借入金	11,400	—
リース債務	15,876	26,338
長期割賦未払金	7,301	866
繰延税金負債	115,566	115,445
退職給付引当金	122,052	124,970
役員退職慰労引当金	249,637	264,229
転貸損失引当金	31,367	30,294
その他	68,985	72,034
固定負債合計	622,186	634,179
負債合計	9,405,644	8,909,392
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,537,261	2,537,261
利益剰余金	△909,540	△982,324
自己株式	△66,105	△66,642
株主資本合計	4,744,001	4,670,679
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△24,369	△33,690
その他の包括利益累計額合計	△24,369	△33,690
新株予約権	7,320	7,020
純資産合計	4,726,951	4,644,009
負債純資産合計	14,132,596	13,553,402

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	7,354,636	8,089,676
売上原価	2,711,774	2,983,153
売上総利益	4,642,861	5,106,522
販売費及び一般管理費	4,811,240	5,060,410
営業利益又は営業損失(△)	△168,379	46,112
営業外収益		
受取利息	17,800	16,990
受取配当金	745	1,027
受取地代家賃	5,353	5,536
貸倒引当金戻入額	1,553	323
その他	16,010	27,574
営業外収益合計	41,463	51,451
営業外費用		
支払利息	90,667	80,451
その他	6,193	5,921
営業外費用合計	96,860	86,373
経常利益又は経常損失(△)	△223,776	11,191
特別利益		
固定資産売却益	2,449	1,079
受取補償金	30,464	—
特別利益合計	32,914	1,079
特別損失		
固定資産除却損	1,298	7
減損損失	—	42,841
賃貸借契約解約損	8,004	5,628
特別損失合計	9,303	48,476
税金等調整前四半期純損失(△)	△200,165	△36,206
法人税、住民税及び事業税	34,815	34,480
法人税等調整額	57,091	2,096
法人税等合計	91,907	36,577
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△292,072	△72,783
四半期純損失(△)	△292,072	△72,783

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△292,072	△72,783
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,237	△9,320
その他の包括利益合計	1,237	△9,320
四半期包括利益	△290,834	△82,104
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△290,834	△82,104

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△200,165	△36,206
減価償却費	206,175	176,385
減損損失	—	42,841
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△2,772	△373
賞与引当金の増減額(△は減少)	△20,500	5,510
退職給付引当金の増減額(△は減少)	2,518	2,918
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	5,776	14,591
転貸損失引当金の増減額(△は減少)	—	△1,072
受取利息及び受取配当金	△18,546	△18,018
支払利息	90,667	80,451
為替差損益(△は益)	3	2
固定資産売却損益(△は益)	△2,449	△1,079
受取補償金	△30,464	—
固定資産除却損	1,298	7
賃貸借契約解約損	8,004	5,628
売上債権の増減額(△は増加)	32,990	28,235
たな卸資産の増減額(△は増加)	△12,138	△62,627
前渡金の増減額(△は増加)	22,380	4,217
仕入債務の増減額(△は減少)	△79,848	△11,489
未払金の増減額(△は減少)	21,150	39,739
未払消費税等の増減額(△は減少)	31,779	35,700
未払費用の増減額(△は減少)	△53,423	△5,609
預り金の増減額(△は減少)	△57,721	△19,446
前受収益の増減額(△は減少)	—	△25,497
その他	12,200	4,737
小計	△43,083	259,547
利息及び配当金の受取額	17,013	16,670
利息の支払額	△89,475	△80,108
補償金の受取額	30,464	—
店舗閉鎖に伴う支払額	△8,004	△3,428
法人税等の支払額	△66,079	△71,953
営業活動によるキャッシュ・フロー	△159,164	120,726

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△0	△0
有形固定資産の取得による支出	△53,113	△80,691
有形固定資産の除却による支出	△1,177	—
有形固定資産の売却による収入	2,449	154,079
無形固定資産の取得による支出	△15,027	△14,194
投資有価証券の取得による支出	△57	△59
敷金及び保証金の差入による支出	△5,000	△10
敷金及び保証金の回収による収入	89,652	130,291
貸付金の回収による収入	652	646
預り保証金の受入による収入	—	3,049
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	△6,541	641
投資活動によるキャッシュ・フロー	11,836	193,752
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△21,000	△21,201
長期借入金の返済による支出	△199,459	△402,412
割賦債務の返済による支出	△111,795	△41,376
リース債務の返済による支出	△3,175	△3,266
自己株式の取得による支出	△245	△537
自己株式の売却による収入	206	—
配当金の支払額	△74	—
その他	△300	△300
財務活動によるキャッシュ・フロー	△335,844	△469,094
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	△2
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△483,175	△154,618
現金及び現金同等物の期首残高	991,516	996,849
現金及び現金同等物の四半期末残高	508,341	842,231

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	6,241,566	808,103	304,967	7,354,636	7,354,636	—	7,354,636
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	6,241,566	808,103	304,967	7,354,636	7,354,636	—	7,354,636
セグメント利益又は 損失(△)	56,524	8,928	△28,132	37,321	37,321	△205,700	△168,379

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	6,867,606	922,778	299,291	8,089,676	8,089,676	—	8,089,676
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	6,867,606	922,778	299,291	8,089,676	8,089,676	—	8,089,676
セグメント利益又は 損失(△)	259,274	61,146	△27,026	293,394	293,394	△247,281	46,112

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「安楽亭業態」のセグメント利益が550千円増加し、「七輪房業態」のセグメント利益が147千円増加し、「その他業態」のセグメント損失が235千円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては19,325千円であります。

報告セグメントに帰属しない全社資産について、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては23,516千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。